

第4学年 社会科「水はどこから ～整備・発展から維持～」

授業者 滝井 康隆

<p>前時までの学び</p>	<p>自分たちの手元にどのようにして安全な水が安定して届けられているのかを調べ、浄水場の仕組みや他県の協力による水源の確保の歴史を学びました。前時では、これからも安心して水が使い続けられるかについて話し合い、施設の老朽化に対して問題意識をもちました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>補助黒板の香川の水道マップの資料を使いながら、坂出市内の水道管が老朽化しているにもかかわらず、ほとんど更新されていないことを想起し、市内の老朽化した水道管を更新する方法を考えると学習課題を確認しました。</p> <p>他の県の協力によって水をもらうことができるようになったよ。その水を少しでも無駄にしないように、早く水道管を新しくしないとイケない。</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>学習課題：どうすれば坂出市全体の水道管を新しくできるのだろう</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 水道管を更新するために必要なことを考え、話し合う。 3 香川県広域水道企業団の存在を知る。</p>	<p>既習の資料を使いながら、坂出市内の水道管の全長を確認し、すべてを更新するためには時間がかかることを共通理解しました。そして、個人で水道管を更新するために必要なことを付箋に書きました。</p> <p>約420kmすべての水道管を新しくするにしても、坂出市の水道のために働いているのは28人しかいない。人が足りないのではないかな。</p> <p>その後、班で一枚のホワイトボード（話し合いボード）に付箋を貼り付け、根拠となる資料があるか、友達と自分の考えは同じか違うかといった観点で話し合いました。</p> <p>人が足りないの、他から来てもらうのではないかな。</p> <p>この資料によると、坂出市は28人で水道の仕事をしているけれど、高松市は180人いるから、そこから手伝いに来てもらえないかな。</p>  
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>「水道管を新しくするために、香川県の市町が協力して、お互いに人やお金を出し合うことが必要だ」などと本時の学習をまとめ、考えチェックカードを使って、「自分の考えは変化したか」「不思議に思うこと」等の観点で振り返りました。</p> <p>友達の意見を聞いて、人だけではなく、お金の面でも協力したらいいと思ったよ。次は、香川県の協力の様子を考えたいな。</p> 
<p>考察</p>	<p>資料を基に自分の考えをつくったり、それらについて班の友達と話し合ったりする時間が短く、十分に考えを深める前に全体交流の時間になってしまった。全体交流で「市町の協力が必要」というまとめを抽象的に理解している様相が見られた。次時以降に「協力すること」の具体的内容を共通理解していく必要がある。</p>